



通信



VOL.9

令和2年5月1日

作成：長岡正宏

「和」から「話」へ。「和」なくして「話」はない。そして「輪」が生まれ、「愛」が育まれる。

道心探求

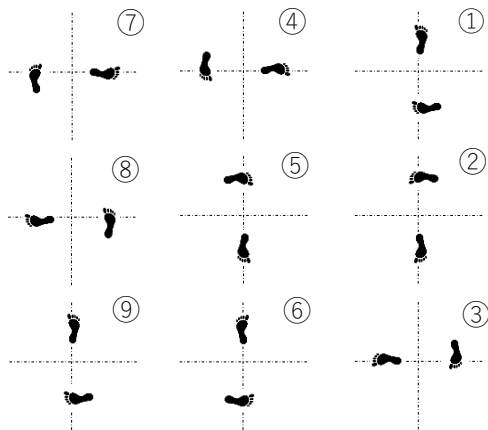
私が合気道を始めたころは、まだ開祖を知る人が多かった。開祖の話をたくさん聞かされた。皆、開祖を目指していた。開祖のこと、戦前戦後のお弟子さんことなど合気道の歴史を結構調べた。その刺激で稽古に励むこともできた。合気道を上達させるためには過去を知ることでもあった。しかし、近年合気道の稽古をされる人で開祖のことに興味を示さない人が実に大勢いることに驚かされる。過去を見つめ伝えることに戸惑うことがある。

よく考えてみれば、現在合気道が発展してきたのは植芝家や著名な師範だけのお陰ではない。たくさん無名人たちが連綿と稽古されたことも、もちろんである。色々な人が稽古に來られ、それぞれの思いがあるだろう。過去を伝えるだけでなく、未来に目を向けて稽古をしていかなければならないことを痛切に感じる。

無名であろうとそれぞれが輝き、それぞれの色を発光させて、その色々な光が集まりステンドグラスのごとく一つの絵になるような稽古風景になればと願っている。それも「和合」であると思う。これこそ合気道の素晴らしさであり、楽しさではないだろうか。開祖が目指した万有愛護・地上天国に近づけていきたい。

【自宅で稽古しよう！】

今回は四方切り。四方切りは運足・素振り・武器の組み合わせで各種ある。まずは、基本を素手で！



～ワンポイントアドバイス～

腕はまっすぐに使ってはならない。腕をまっすぐにすると、相手との接触点から遠くに支点ができてしまうので良くない。私が稽古中よく言うように、受け身を取るときのように、腕全体を丸くすることだ。そして丸く使うこと。すると、支点が接触点近くにできる。稽古しているうちに、やがて支点が消えてくる。ということは、相手に自分の動きが悟られなくなる。ゆっくりと技を掛けても相手に気づかれまいだろう。



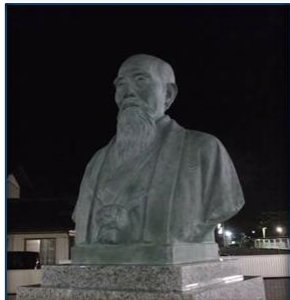
腕は丸くし、丸く使う！



合気の旅

茨城県笠間市にJR常磐線の岩間駅がある。以前紹介した合気神社・合気会茨城支部道場があるところだ。平成の大合併で岩間町は消滅し笠間市に組み込まれた。地名として「岩間」がなくなってしまったことは少々悲しい。

駅舎には「JR岩間駅・あいろーど」と表示されている。岩間駅東口を出ると開祖の銅像が建っている。平成24年7月に建立された。駅から合気神社まで約300メートルある。途中石柱が5基建っている。石柱には開祖の写真と道歌の解説が記載されている。すべての石柱を見終わると、すぐに合気神社境内の一角が見える。



～開祖の言葉～

勝つとは己の心の中の「争う心」にうちかつことである。

「合気道新聞」第2号（昭和34年5月）より

